

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月曜～金曜 10時～17時



写真：引っ越した家の庭にオリーブ
の大木があり、実がたくさん
なりました。

さて、どうしたものか…

(名古屋市天白区 鈴村さん投稿)

募集中！

《表紙の絵/作品/写真》

①絵/作品/写真のタイトル ②簡単な説明 ③
掲載する氏名またはペンネーム、年齢 ④連絡
先(氏名、メールアドレスまたは電話番号)を明

《問合せ先・送り先》

メールフォーム➡

●TEL：052-954-6722

●E-mail：aозora@aichi-shien.net

●住所：〒460-0001 名古屋市中区三の丸
3-2-1 愛知県東大手庁舎 1階



9月号 防災特集

《もくじ》

P1. 表紙写真 (鈴村家のオリーブの木)

P2. 防災特集①：寄稿

伊勢湾台風60年市民防災の集い

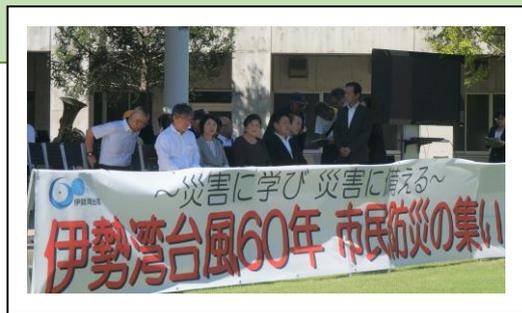
P3. 防災特集②：インタビュー

飛島村・久野村長

P4. 防災特集③：さっちゃんの防災レシピ

防災特集① 寄稿 ～災害に学び、備える～「伊勢湾台風 60 年市民防災の集い」報告

(実行委員 名古屋キリスト教社会館 谷川 修)

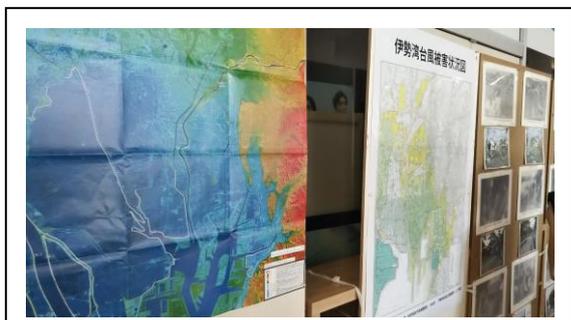


防災特集として、被災者支援と共に市民防災にも取り組むキリスト教社会館の谷川さんに寄稿いただきました。

今年、阪神淡路大震災までは戦後最大の自然災害といわれた伊勢湾台風から 60 年

東海地区にお住まいで 60 歳以上の方ならば、誰もが忘れられない自然災害が、1959 年 9 月に襲った伊勢湾台風です。今年、60 年の節目の年で、「伊勢湾台風 60 年市民防災の集い」が 9 月 7 日(土)に、名古屋市南区の大同大学滝春キャンパスにおいて開催されました。大同大学関係者や、伊勢湾台風の被災者支援を契機に創設された名古屋キリスト教社会館、同じような経緯で設立された南医療生活協同組合に、南区を中心とした災害支援等に関わる団体や地元住民・組織、南区や南区社会福祉協議会、名古屋南消防署や南区内の消防団などの実行委員会により、まさに市民ぐるみの防災企画として開催されました。

大学の地域防災を研究されている研究者による防災シンポジウム、災害ボランティアネットワークや家具転倒防止の普及をすすめる団体等によるデモンストレーション、防災に役立つ手作り品・料理のワークショップ、当時の被災写真の展示がありました。子ども向けには、防災レクリエーションスポーツやクイズ等々、30 ほどの取組み・ブースがあり、2,800 名ほどの来場者が防災意識を高め、知恵を学び、いつ起きてもおかしくないといわれる自然災害への備えを深めました。



この取組みを通して

この「伊勢湾台風市民防災の集い」は、元々は 20 年前に、阪神淡路大震災の復興支援に関わった者が中心となり、地元の災害から学ぶ必要性を思い、広く呼び掛けて実施された事業です。その後、5 年おきに南区内を会場に開催されてきましたが、回を重ねるごとに加わるメンバーも増え続け、災害時のネットワークが構築できていることも大きな成果だと感じています。自然災害は必ず起きる、如何にして命を守り、被害を極力小さくできるのか。また、避難生活も余儀なくされるだろう、現状の避難生活の実態を改善するにはどうしたら良いのか、といった問題提起もありました。

愛知県、三重県の伊勢湾岸地帯は、元々はほとんど海であったところを埋め立てた土地が多く、海拔 0 メ



ートル地帯が大半を占めます。そのため、地震や台風、豪雨などの水による災害にとっても弱いという地理的条件にあります。それを理解し、踏まえた防災への備えを、そこに住む、あるいは勤務する一人ひとりがしっかりと自覚することが大切です。そうした自覚を促すねらいは、一定の成果を生んだと考えられます。

副実行委員長の閉会の挨拶のように、「これで終わりではなく、ここから地域防災を高める始まり」にしていくことが肝要だというのが、関係者の一致した思いでした。

防災特集② インタビュー 飛島村・久野時男村長 (@飛島村役場)

聞き手：西村淳一さん（名古屋市北区在住 避難元:宮城県山元町）

伊勢湾台風の甚大な被害を経験された飛島村の久野村長に、西村淳一さんと「あおぞら」編集委員が当時の被害などのお話を伺いました。久野村長は60年前、当時11歳ながら幼い弟や妹を守りながら避難し、以下のような、少年の目と心に映った当時の体験を追想しながら思いを語っていただきました。

村の大人たちの心をひとつにして災害を乗り越える努力、避難生活での子どもたちのいじめと助けようとする心、災害時のぎりぎりの状況に置かれた人の相反する様子、学友や優しい人々との出会いから勇気を与えられ、今の自分が作られていることを涙と共に話されました。「今度は何かできることで恩返しをしたい」という思いの中に、これまでの飛島村の被災者支援の深い心髄を感じました。（編集子）

◎ニワトリの話

夜、水が急に上がってきて家の中の畳がプカプカ浮き、屋根の下・ツシ(辻子)に避難しました。夜が明けて屋根の上へ上がって見ると、空は真っ青で、一面が海になっていて、一体何が起こったのかわかりませんでした。その時、自分が毎日餌をやっていた15羽のニワトリのうちの2羽が餌をもらえるかと寄ってきました。「お前たちも生きていたか！」と共に命が助かったことを喜びました。すると、お父ちゃんから「皆が食べるものがなくて腹を空かせているから、鶏を絞めてくれるか？」と言われました。僕は「それは出来ない！」と言いましたが、今の状況ではそうするしかないと思い、言われた通りにしました。でも僕はどうしても口にできませんでした。お母ちゃんが「偉かったね」と言ってくれました。

〈久野村長と西村淳一さん 飛島村役場にて〉



◎初めてのチョコレートの甘さ

避難所へ向かう米軍のヘリコプターに緊張して乗ると、そこに若い兵士がいて何か四角いものをくれました。戸惑っているとそれを開けて口に入れてくれました。妹が「甘いね！」と言いました。初めて食べたチョコレートでした。後にその人はジョージ・エドワード・セイモアさんという人だとわかりました。

◎お好み焼き屋のおばさん

避難所でお腹をすかせた弟と妹を連れ、気を紛らすために夜の町に出ました。「いいにおいがするね！」。そこにはお好み焼き屋さんがありました。1つ分のお金しか持っていないと言うと、店のおばさんは3人分を1つにした大きなお好み焼きを焼いてくれました。「子どもは遠慮しないで、甘えていいんだよ」と言ってくれました。

【インタビューを終えて（西村 淳一）】

久野村長の熱く語られた伊勢湾台風時の体験が、今の飛島村のきめ細かな防災対策となって表れていることに、納得しました。また、伊勢湾台風時に各地から受けた支援の恩返しにと、東日本大震災の被災者に5年間もお米を支援してくださいましたことに、感謝申し上げます。

【*これらのエピソードなどを基にしたミュージカル『空が落ちてきた日。』が上演されます。P4 イベント欄をご参照下さい】

9・10月イベント情報

開催日	イベント名	内容（主催）	最寄駅
9月29日（日） （*開催日にご注意！ すぐの開催です）	伊勢湾台風60年式典 （飛島村中央公民館 ホール）	第一部 10:00～挨拶・献花 第二部 11:00～13:00 伊勢湾台風 ミュージカル「空が落ちてきた日。」 （入場無料・要申し込み・先着順： 飛島村役場総務課 0567-97-3461）	近鉄蟹江駅から 飛島公共交通バ ス蟹江線で「飛 島村役場」
10月6日（日）	岩手・宮城「気軽にお茶 飲み交流会」（実行委員 会主催） （東海市しあわせ村）	温灸体験・笑いヨガ体験など、昼食は 温野菜の豚しゃぶと五目煮を作ります。	名鉄「聚楽園」（準 急・普通）徒歩5 分

※イベントの一部を掲載しています。

さっちゃんの防災レシピ

〈チキンライス〉

【材料】米1カップ、焼き鳥缶1、玉ねぎ1/4個（みじん切り）、コンソメスープの素1/2個、ケチャップ小さじ2、水1カップ

【作り方】

- ① 材料を全てポリ袋に入れ、材料を混ぜる（*米は洗わなくてよい）
- ② ポリ袋の空気を抜き、出来るだけ上部をしっかり縛る（*ポリ袋に空気が入っていると調理中に破れる。出来上がると米の量の約2倍になるので、余裕をもったサイズを使用）
- ③ 大きめの鍋に水を入れ、②を入れ沸騰してきたらそのまま20分ゆでる。
- ④ 20分したらお湯から取り出し、タオルなどにくるんで20分程蒸らしてできあがり。（*ミックスベジタブルなどがあれば、色どり、栄養バランスも良い）



〈切干大根のサラダ〉

【材料】みかん缶1缶、切干大根1袋（40g）

【作り方】

- ① 切干大根は2回ほどさっと洗い、しっかりしぼる（*乾物は雑菌が付着している恐れがあるので、災害時に下痢などを起こさない様に洗う。洗った水は捨てずに、チキンライスを作る時の茹で用に使用する）。
- ② みかん缶のシロップに①を30分以上浸けこみ、できあがり。（*190gのみかん缶のシロップで、40gの切干大根が戻せる。みかんはデザートに。干しわかめも一緒に入ると、栄養バランスも良い）

※防災食は特別な物ではなく、缶詰、レトルトパック、乾物など、賞味期限が長く、いつも使い慣れているものがストレスを少なくします。

※皿にラップを敷き、洗わず何回か使います。

編集後記



- ・1959年(昭和34年)9月26日夜の伊勢湾台風来襲の時、小学5年生だった。家の中で家族と必死に暴風で飛ばされそうになる板戸を押さえた。上陸時の気圧929.2hPa、風速55.3m/s、死者・行方不明者5,098名、住宅損壊153,890棟、浸水363,611棟。改めていかに巨大な台風だったか！（T.K）
- ・①「可哀そう」同情辞めて平等に 人権訴え 被災者支援 ②ごんぎつね 矢勝川土手 彼岸花 赤い里山 空まで染めて（T.Y）
- ・母は大正7年11月生まれ、もうすぐ101歳。いまだに月に数回お説教される私。「そこに座りなさい」から始まり、滔々と語る姿…わが母ながら立派です。（K.K）